

会議名	第 2 回宇部市産業振興計画推進委員会
日時	令和 8 年 9 月 2 日（水曜日）9 時 30 分～11 時 00 分
場所	市民交流棟 会議室 D・E
出席者 （敬称略）	委員 12 名（欠席 6 名） 事務局 13 名 （宇部市産業経済部 2 名、成長産業創出課 2 名、企業立地推進課 2 名、産業政策課 5 名、(株)ジャパンインターナショナル総合研究所 2 名）
会議資料	・ 令和 8 年第 2 回宇部市産業振興計画推進委員会 次第 ・ 資料 宇部市産業振興計画 中間見直し骨子案 ・ 参考 施策体系比較資料 ・ 宇部市産業振興計画推進委員会 委員名簿 ・ 御意見アンケート
会議内容	
1. 中間見直し骨子案について	
主な議事内容	
議題中間見直し骨子案について ≪事務局より、資料について説明≫ ⇒質疑・意見は以下のとおり ・ 39 ページから基本方針の現状・課題・方向性があり、45 ページから産業振興の方向性がある。この 2 つの方向性は同じものと捉えてよいか。（委員） ・ 文言のばらつきはあるかもしれないが、考え方としては同じものを示している。（事務局） ・ 46 ページの基本方針 1 の具体的施策に「GX 産業振興の促進」とあるが、基本方針 1 の説明文に GX が出てこないのはどうか。（委員） ・ 御指摘を踏まえ、随時見直していききたい。また、GX については、社会情勢の変化等の説明にも何度も出てきており、施策体系にも表記したいと考えている。GX 戦略地域の認定を受けた際には、ぜひ明確に打ち出していきたい。（事務局） ・ 「オープンイノベーションの推進」も、46 ページで初めて出てくるように思う。（委員） ・ 45 ページには記載がないが、これまでも企業、大学、研究機関などとの連携を強化しオープンイノベーションの推進に取り組んできたが、更に推進させていくことを考えており、施策体系に表記している。45 ページにも追記するよう検討したい。（事務局） ・ オープンイノベーションを追記するとのことであるが、現状・課題の整理などがあり、その上で方向性が示されるべきであると思う。必要であるという根拠を追記した方が良い。（委員） ・ 40 ページの基本方針 2 の課題において、「ものづくり産業をはじめとする基盤産業への個別支援は一定の成果を上げているが、市民からの満足度が低い」と記載がある。方向性として「市民の目に見えやすくするとともに、商業やサービス、他の幅広い事業者への支援や、基盤産業への支援もバランスよく継続する」といった表記にしておかないと、見えにくいままになってしまう。表現を工夫してほしい。（委員）	

- ・ 42 ページの課題の総括で、産業振興とまちづくりを同義として捉えるというのは違和感がある。「一体的に進める戦略が不可欠である」ということが言いたいのではないか。表現を検討してほしい。（委員）
- ・ 40 ページの基本方針 2 の一番下、「多能工化を進めて強靱性を高める」とあるが、多能工化は 10 年ほど前から言われているものであり、現在は DX による省人化が主流である。人が行っていたことをロボットやシステムに置き換える取組が主流となっている。多能工化も必要ではあるが、現在の時代の動向にあっているか検討してほしい。（委員）
- ・ 45 ページ、「働く、育てる、暮らすの好循環」という言葉が素晴らしい。46 ページにも、こういった好循環を表す表現があると良い。（委員）
- ・ それぞれの文言の最後に「推進します」「図ります」という表現が多いが、誰がいつ実施するのは次の議題となるのか。既に決まっているものか。（委員）
- ・ 全てというわけではないが、基本的には宇部市の施策として実施していくものである。また適宜連携を図りながら、共創・協働により取り組むことを想定している。実施時期については、計画には各事業のタイミングやスケジュールを示さず、今後、毎年度、各部において取組に落とし込む中で実施することを想定している。今後の進め方については、次の素案において具体的に示す。その際には、主体が分かるよう主語を置くように考えている。（事務局）
- ・ 誰が責任を持ってリーダーシップを発揮するのか、明確にしてほしい。（委員）
- ・ 44 ページのありがたい姿で目標指標について、最終的な目標が定まっていなければ、取組が成功したかどうか分からず、計画後の検証にもつなげることができない。「次世代へつなげる活力に満ちた強い産業のまち」と掲げているので、10 代・20 代の県外流出率など、より多くの数値を設定し、施策の成果を把握できるようにした方が良い。（委員）
- ・ 次回はロジックモデルの形を用いて、各施策のアウトプット、アウトカム、インパクトの流れの中に、最終的な目標指標も組み込む必要があると考えている。それぞれがリアルタイムに測れる指標であるかという点も次回に向けて検討していきたい。（事務局）
- ・ 目標指標について、市内総生産は第 1 次産業を除くものとなっている。市民 1 人当たりの雇用者報酬についても、第 1 次産業を除くのか。また、雇用者報酬は分かりにくいので、統計にある 1 人当たりの年収の方が分かりやすいのではないかと。（委員）
- ・ 「戦略的な企業誘致の推進」とあるが、「戦略的」とは具体的に何を示すのか説明してほしい。（委員）
- ・ 現在、産業団地の残り区画が少なくなっているため、新たな産業団地の整備について山口県に働きかけていく。また、民間の未利用地や空き工場に関する情報を収集し、マッチングを図ることで、企業立地につなげていきたい。（事務局）
- ・ 市内で情報系の就職先が十分確保できるかがカギになると思う。戦略的に企業と結び付け、情報系企業を誘致してもらえれば、地元企業への定着も図れるのではないかと。情報系企業は誘致しやすいと聞いている。（委員）
- ・ 企業誘致については、既存施設を活用したまちなかへの賃貸による誘致も進めている。このたび、補助金制度を見直し、未利用地への新たな補助金を設けるほか、IT・DX 関連企業等の成長産業の産業集積を戦略的に進め、若者等に魅力的な就職先の創出につなげていきたい。（事務局）

- ・市民の人口、働く人の数が重要になるとの意見がある。出生数が減少し、10年後には市内高校の生徒数が1,000人、あるいは800人を下回ることも想定される。宇部市に市外から人が来てくれることが重要であり、「市外から人を受け入れることに力を入れている」ということが、より分かりやすく表現される必要がある。産業のまちとするにも人が必要である。人口問題をどのように考えているか。（委員）
- ・「働く・育てる・暮らす」の好循環が、まさにその考え方に当たる。上位計画として総合計画があり、今回の産業振興計画は、その中でも産業に特化したものである。市としては、仕事があれば人は住まないため、まず仕事をつくり、そこに人が住み、子どもを育てていくことで、まちが発展していくと考えている。この流れは計画にもしっかりと盛り込んでいきたい。今回、総合計画と並行して見直しを進めており、連携を図りながら素案を作成していく。まちづくりを一体的に進めながらこの産業振興を推進することが分かるような表記ができないか検討する。（事務局）
- ・人材の確保・育成について、課題として、やりがいや自己成長とのミスマッチがある一方で、アンケートでは、企業が人材育成に時間を割けていない、又は取り組もうとしていないという背景がある。雇用者側に人材を育成したいと思ってもらうための働きかけも盛り込み、企業に人を育てる意識を持ってもらい、キャリア形成・自己成長を図りながら人材が定着するようにしてほしい。（委員）
- ・前回から通して、課題に対して示されている方向性が若干一致していないように見える。課題への対応が分かるように一体感を持たせると、より分かりやすくなると思う。（委員）
- ・事業者に人を育てたいと思ってもらうことは重要であり、経営力の強化とあるように、人材も経営戦略の一つであると考えている。その点を意識して作成していきたい。課題についても、分かりやすくなるよう意識して作成する。（事務局）
- ・指標については、当初、定量的な数値指標を年度ごとに設定していたと思う。これを活用してはどうか。現状、令和7年度までの計画に対応した実績は取りまとめているか。（委員）
- ・取りまとめているものがある。計画の大筋は変わっていないため、これをベースにすることもひとつの案である。（事務局）
- ・目標指標としては明確である一方、リアルタイム性がないことや、因果関係を把握しにくいことなどの課題がある。基本的にはこれらの指標を活用していくことが良いと考えているが、以前「もう少し成果を重視した形で見ていくべきではないか」などの意見もあった。波及効果などの視点で指標を追加できればよいと考えているため、具体的な意見があれば伺いたい。（事務局）
- ・キーワードとしてGXがありながら、方向性の中に出てこないことが気になっていた。県内他市町では脱炭素で先進的に取り組んでいるところもある。脱炭素・GXが今後重要になってくると思う。（委員）
- ・若者の定着率が低いといった記載があると思う。指標として、山口大学や短期大学などの卒業生のうち、どの程度が宇部市に就職したかといった数値は把握できるのではないかと。できる限りこうした点を見据えながら、細かい部分もデータで示す努力が必要だと思う。年ごとの推移などを見える化してほしい。（委員）
- ・グラフ化するなど、推移が分かる形で示してほしい。（委員）
- ・経年のデータもあるため、どのように見せていくか考えていきたい。（事務局）

- ・宇部市らしい特徴が分からず、宇部市が今後どのようなようになっていくのかというイメージも浮かばない。宇部市と同じようなまちに行けば似たような取組がある。「宇部市はこれだけは守る」といったものがなければ面白みがない。他都市と全く異なる部分で戦略を立てたいという意思が感じられない。そうしなければ、他都市と競い合い、勝っていくことはできないと思う。国と県は指針を示すものであり、市はそれを具体化したものでなければならない。そうでなければ市民には分からない。（委員）
- ・次回の議題となる素案の中で、宇部市が何をするのかが記載されると思う。（委員）
- ・資料 45 ページの基本方針 3 において、未来ウォーカーとして仕事体験のような説明会を行っているが、中学生を対象とするものを小学生くらいから実施してほしい。小学生には、将来になりたい仕事の特になんかという子どもも多い。仕事に興味を持つことにつながるような企画をしてほしい。（委員）
- ・出張キッザニアは毎年開催できるものではなく、単発の取組となってしまう。継続的に実施できるものが必要である。岩国市など様々な地域で行われている取組も参考にしながら、何ができるか考えているところである。（委員）
- ・よく出てくる意見ではあるが、どこまで効果があるのかを慎重に判断しながら、引き続き検討していく。（事務局）
- ・産業振興の柱を何にするのか、具体的に示してほしい。（委員）
- ・目標指標について、策定時の設定根拠が分からないとあったが、最終目標値を決める際の根拠は気になる。令和 3 年度の策定時と状況も変わっている。ロジックを示した上で、最終目標値を考えていくべきである。（委員）
- ・起業とオープンイノベーションについて、大学が多いため、学生の起業を積極的に推進することで、地元に着定してもらえることもあるのではないか。（委員）
- ・指標としては、リアルタイムで測定できないということが一番の課題であると考えている。他に適切な指標がないか、皆様からも意見をいただけるとありがたい。また、これまで以上にオープンイノベーションの推進に力を入れていきたいという思いから、施策体系にも言葉を入れている。大学だけでなくスタートアップ企業も念頭に置き、様々な機関と連携しながら進めていく。（事務局）
- ・次回の委員会では、骨子案に基づいた具体的な手法が示されるのか。（委員）
- ・次回の委員会では、素案として産業振興計画のたたき台を作成したいと考えている。骨子案の施策体系で示した枠組みに基づき、各施策に対する具体的な取組や、成果指標を決めて示したい。本日いただいた御意見を参考にしながら、皆様の意向を反映していく。（事務局）
- ・指標が定まらなければ「これをすればこれが達成される」というところが分からない。指標・目標を設定してほしい。（委員）
- ・誰が、何を、いつまでに行うのかが分かるようなものになればよいと思う。（委員）
- ・施策体系の見直し案において、GX 戦略地域の認定を受けてからとあったが、8 月中には認定を受けると聞いていた。いつ認定を受けるのか、情報があれば教えてほしい。（委員）
- ・現時点で明確な情報はなく、山口県に確認しているが情報を把握されていない状況である。（事務局）

その他 アンケート意見

- ・現状と課題の整理 基本方針 4 において観光客数や交流人口が回復しているということなので、その部分を伸ばすことも必要ではないか。（委員）
- ・成果指標として、人口移動（転入、転出）も組み込むといいのではないか。（委員）
- ・GX 戦略地域には無限の可能性があると思う。企業誘致による雇用創出が人口増につながり、さらには市の税収増となり、市民生活に必要なサービスに還元されるという好循環に期待したい。（委員）
- ・第 3 章の「ありたい姿、施策の方向性及び施策の内容」において、目標数値などを示しているが、全体として文章中心であり、具体的な指標や数値化が不足している。そのため、規模感や将来像が想像し難い。可能な限り具体的な目標値を示すことで、イメージが明確となり、理解の度合いも深まるものとする。（委員）